

令和 3 年 5 月 18 日現在

機関番号：12601

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2018～2020

課題番号：18K11988

研究課題名(和文) イスラーム地域研究情報資源学の基盤構築に向けた研究

研究課題名(英文) A foundational studies for sharing and utilizing Islamic Area Studies Information Resources in Japan

研究代表者

徳原 靖浩 (Tokuhara, Yasuhiro)

東京大学・附属図書館・特任助教

研究者番号：80612358

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,800,000円

研究成果の概要(和文)：欧米の大学・研究機関図書館で活動する中東研究ライブラリアン(Middle East Librarian)の業務をモデルとして、日本の研究環境においてその機能をいかに担うか検討するため、北米およびヨーロッパの中東研究ライブラリアンの会合に参加したほか、関係文献から情報を収集した。また、これまで行ってきた目録作成、資料収集の課題やノウハウを共有するため、大学・研究機関図書館員を主な対象とした目録作成ワークショップを年1回開催し、情報共有のネットワークの維持に努めた。また、より広い情報共有のために、イスラーム地域研究文献の収集・組織化・利用に関するリンク集ページを作成しウェブ上で公開した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

外国地域の研究に用いる資料を、大学・研究機関の図書館で効率良く収集し、整理し、利用に供するためには、当該外国語の知識と、図書を扱うための図書館情報学の知識に加え、当該地域の出版事情や研究動向、商慣習などの知識が必要である。欧米の大学には、主題や専門領域ごとにサブジェクト・ライブラリアンを設置し、専門資料の管理にあたらせている。こうした職種のない日本において、同様の機能をどのように担っていくかについて検討するため、欧米の中東研究ライブラリアンとの情報交換、また関係文献からの情報収集を行い、機関の壁を越えて図書館員が共有できるよう、ワークショップの開催やリンク集の作成を行った。

研究成果の概要(英文)：In order to understand the tasks of Middle East Librarians in university and academic libraries in North America and Europe and to examine how to play the role in Japan, I participated in annual meetings of Middle East Librarians in North America (MELA) and Europe (MELCom Intl). At the same time I collected information from related literature. In addition, in order to share the issues and know-how of cataloging and collection building I have been conducted so far, I hold a cataloging workshop once a year mainly for librarians of universities and research institutes to maintain the information sharing network. For wider information sharing, I made link collection page on the collection building, organization, and use of Islamic Area Studies resources and published it on github.

研究分野：ペルシア文学

キーワード：イスラーム地域研究 情報資源組織 人文情報学 図書館情報学

様式 C-19、F-19-1、Z-19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

イスラーム地域を研究するためには、アラビア語、ペルシア語、オスマン/トルコ語、ウルドゥー語といった現地語資料の存在が欠かせない。欧米の大学では、こうした資料を専門的に扱うサブジェクト・ライブラリアン/スペシャリストが存在するが、日本では幾つかの前例があるものの、外国地域研究の分野でサブジェクト・ライブラリアン(エリア・スペシャリスト)の機能を本務として行う人材は、ジェットロ・アジア経済研究所図書館のエリア・ライブラリアンを除いて存在しない。

したがって、日本の大学図書館においては、これらの外国語資料については選書や購入は教員が、整理は学生アルバイトや下請け業者が、実際の運用は図書館員がそれぞれ分担して行うことになり、購入から整理・保管までを一貫して扱う人間が存在しないため、カウンターでのレファレンス・サービスなどはほぼ不可能な状態である。また、スマートフォンの普及による学生のパソコン離れ、キーボード離れと検索スキル全般の低下も指摘される中、不正確な目録が増えていることで、紙の資料が有効活用されない事態が、既に起こりつつあると言ってよい。

以上のような状況に鑑み、サブジェクト・ライブラリアンなき日本の大学図書館において、いかにして高度な研究の支えとなる情報資源へのアクセスをいかにして確保し、持続的に共有していく仕組みを確立できるか、その方法を考察することが、本研究の背景となる課題であった。

2. 研究の目的

国内及び世界中に存在し、新たに生み出されるイスラーム地域研究資源を、大学・研究機関等において効率的に収集、整理、利用促進するために、本研究では、従来、教員、学生、図書館員が個々に蓄積してきた、収集、整理、利用に関する知識やノウハウを集約し、アップデートすることで、資料への効率的なアクセスを確保する仕組みを考える。

3. 研究の方法

欧米の大学・研究機関図書館に所属する中東研究ライブラリアン(Middle East Librarian)の業務を把握し、(サブジェクト・ライブラリアン)のいない日本の環境で同様の役割をどのように実現するかを検討する。便宜上、現地語資料の扱いを(1)収集、(2)組織化(整理)、(3)利用促進の3つの局面に分ける。

(1)収集: 中東・イスラーム世界の図書館情報資源がどこでどのように生み出され、流通しているかを把握し、写本や文書などの図書館所蔵資料やデジタル化資料を含めた入手・アクセス方法を把握する。そのために、現地の出版関係者への取材や、ブックフェアの視察などを行う。

(2)組織化(整理): NACSIS-CATにおける目録作成の技術的問題の把握と、機関の枠を超えた図書館員との定期的なワークショップの開催、マニュアルの作成を通して、目録作成知識の向上と共有を図る。

(3)利用促進: 初学者にとって有益な入門書や研究書を順を追って参照していくための手引きを作成し、インターネット技術の発展に即した効率的な検索法の把握と共有を行う。また、国内主要機関の現地語資料の所蔵状況や利用方法を把握し、共有する。また、情報収集のために、欧米の大学に所属する中東研究ライブラリアンと情報交換を行う。

以上の研究を通して得られた情報を、集約・体系化し、ポータルサイトを設置してそこで随時公開する体制を準備することを、作業上の目途とする。

4. 研究成果

(1) 中東研究ライブラリアンの業務について

中東研究ライブラリアンの業務について、関係文献および当事者へのインタビューによって把握を行った。Hazen & Spohrerによれば、地域研究ライブラリアンの業務は、蔵書の構築と維持管理、専門分野の指導的助言やレファレンス・サービスに関連する幅広い活動が含まれる(Hazen & Spohrer 2007: 3)。Cassner & Adamsによれば、サブジェクト・ライブラリアンの94パーセントが、専門的なレファレンス業務を行い、81パーセントが電子資料を含めた蔵書構築を担っている(Cassner & Adams 2008)。

特定の地域を対象とするエリア・ライブラリアンの業務は、単一のディシプリンにもとづく研究を支援するサブジェクト・ライブラリアンのそれとは、大きく異なる面もある。エリア・ライブラリアンにとっては主題知識よりも、外国語や外国地域に関する知識が必須であり、それを欠いた場合には蔵書管理(collection management)という核となる業務が著しく困難となる(Pitman 2015: 22)。また、語学力については、単に外国語の資料を判読するという読解レベルではなく、海外の出版社や書店とコンタクトをとり交渉を行うため、会話力や作文能力も必要であろう。さらに、複数のディシプリンをを用いることの多い地域研究を支援するためには、その地域の文化と歴史に関する知識も欠かせない(Pitman 2015: 22-23)。このほかに、Pitmanは、エリア・ライブラリアンの重要な業務として、ファカルティとのリエゾン業務、また、国内外の他のエリア・ライブラリアンとの連携や、有用なコレクションの情報を得ることが必要であるとしている。一つの図書館では、地域研究の多様なニーズにこたえることが難しいからである(Pitman 2015: 24)。地域研究を支える研究図書館の業務には、地域研究蔵書の収集と管理、地域研究の

ためのデジタル情報資源(デジタル化やキュレーションを含む)、未公開・未整理資料と組織化、研究者の支援などがある。

2018年6月、ヨーロッパの中東研究ライブラリアンの会合である MELCom International 年次大会(於ブダペスト、ハンガリー科学アカデミー)に参加し、日本における中東・イスラーム研究資源の概要について発表を行ったことで、参加者との交流を効率的に進めることができ、様々な情報を得ることができた。この出張中に2名のベテランの中東研究ライブラリアン(イェール大学: ロビン・ダワティー氏、元 UCLA: デヴィッド・ハーシュ氏)から、その業務について伺うことができた。二人とも、まず大学院までにアラビア語を習得していた背景があり、その上で、研究者以外の仕事を希望したとき、学生や研究者をサポートするライブラリアンの仕事が選択肢として浮かんだという。研究者とライブラリアンの職務ははっきりと区別されている。前者は常に新しい知見や事実を追究し、研究プロジェクトを運営し、継続的に成果を出すことが求められるが、後者はそのためのサポートを担い、文献の提供を念頭に蔵書構築を行い、レファレンス・サービスやレフェラル・サービス、研究ガイドの作成、また場合によってはイスラーム史やアラビア語学などの基礎的な科目の授業も担当する。

また、中東研究ライブラリアンの職業的アイデンティティについて、アナイス・サラモン氏のアンケートに基づく調査がある。それによれば、アンケートに回答があった76名の北米・西欧・中東で勤務する中東研究ライブラリアン(職名はそれぞれ異なる)のうち、図書館情報学修士の学位を持っている者は52名、中東研究修士の学位を持っている者は54名、両方を持っている者は36名と、約半数が、図書館情報学と中東研究のダブルマスターである。なお、博士号を持っている者は9名のみである。また、2か国語をマスターしている者は24名であり、3か国語を操る者は19名となっている。修得している言語のうち最も多いのはアラビア語で58名、次にペルシア語が29名、トルコ語ないしオスマントルコ語が26名と続く(Salamon 2014: 647)。

(1) 収集・組織化・利用促進

収集・蔵書構築: 2018年および2019年に MELCom International 年次大会(上述) また2018年に MELA 年次大会に参加し、従来から利用していた Leila Books(カイロ)のほか、Ferdosi (スtockホルム)、Iran Farhang (パリ/テヘラン)、Al-Muthanna Library (バグダード/イスタンブール)、Libra Kitap (イスタンブール)、MIPP International (ベラルーシ) の担当者と直接会い、インボイス請求による後払いに対応可能であることを確認した。これにより、エジプトおよびアラビア語圏、イラン、イラク、トルコ、中央アジアの資料は書店から直接購入が可能となった。

また、2019年11月にシャルジャ国際ブックフェアおよびイスタンブール国際ブックフェアを視察し、アラビア語およびトルコ語図書の出版概況を確認したほか、電子書籍の動向について情報を収集した。両ブックフェアを視察した限りでは、電子書籍専門の出展者は1、2団体のみであった。めばしいベンダーを幾つか挙げると、OverDrive (当時、Rakuten OverDrive) 社では、アラビア語の図書も含めた図書館向けの電子書籍貸し出しサービスを提供しており、古典テキストなども含まれている点で、大学図書館でも利用する価値があると思われるが、独自のチェックアウト方式になるため、大学の EBSCOhost のような検索プラットフォームに組み込むことは難しいとのことであった。また、ドバイに拠点を置く電子書籍プロバイダー Al-Manhal は、既存の出版物を230以上の版元との提携によって電子化しており、2019年8月現在、16,362タイトルを収録、2019年末までに20,969タイトルにまで増える予定とのことである(2021年5月現在、18,347タイトル)。他社の電子書籍はスキャンに伴う誤植が生じる場合があるのに対し、オリジナルの紙版との内容の完全一致を謳う。複数利用者の同時閲覧が可能。また、MARC21形式の目録データが無償で付加される。Al-Manhal は電子書籍のほか、電子ジャーナル、電子学位论文のサービスも提供している。

組織化(整理): ペルシア語・アラビア語等の外国語資料の目録登録を実践し、作業で得たノウハウや課題を、機関の枠を越えて共有するため、2018年に目録作成ワークショップチベット語編(於東洋文化研究所)、2019年にペルシア語とアラビア語編(於東洋文化研究所)、2020年にウルドゥー語編(オンライン)を開催した。

ワークショップ参加者だけでなく、時間・場所を問わず必要な情報が得られるよう、github 上に「イスラーム地域研究情報資源学」のリンク集サイトを公開した。また、ウィンドウズ PC で目録作業を行う際に手間のかかるアラビア文字や拡張ラテン文字入力に使える文字パネルに関して、以前に東洋文庫研究部イスラーム地域研究資料室ウェブサイト上で公開したものを改良し、中央アジア諸言語に利用できるキリル文字のパネルを追加して同じく github 上で公開した(徳原 2020)。また、情報資源組織全般に関わる情報収集を行い、日本図書館研究会情報組織化研究グループの月例研究会、リンクト・データに関わる国際会議 2020 LD4 Conference に参加した。加えて、NACSIS-CAT における外国語資料の分類付与率の調査に基づき、目録・分類作業人材の流動化・アウトソーシング化を見直し、雇用を促進する提言をオンラインジャーナルに発表した(徳原 2021)。

利用促進: 本務先(U-PARL)のウェブサイト上で、「アジア研究図書館資料の探し方」(<http://u-parl.lib.u-tokyo.ac.jp/archives/japanese/findmaterials>)を公開した。利用促

進に関連して、近年、発展著しいデジタル人文学について情報収集を行った。近年、人文科学において、コンピュータによる計算・処理を用いて新たな知見をもたらすデジタル人文学が注目されている。従来からあるコーパス言語学や計量文献学、GIS を用いた地理学研究などに比して、新世代のデジタル人文学は、機械学習やビッグ・データを用いる点に特色があり、場合によっては、これまで人手で行ってきたデータ入力やデータの収集作業も、クローリングやクリッピング、OCR 技術によって機械化・自動化されることを目指す。イスラーム研究の分野においては、特にアラビア文字の OCR 技術の開発と、それを用いたテキストの電子化、クローンやハディースのテキストのセマンティック・ウェブ化などが盛んにおこなわれている。

2013 年に開かれた国際会議の内容を基にした Muhanna (2016) は、現在、中東・イスラーム研究分野でデジタル人文学の可能性を考える上で格好の入門書となっており、2018 年 12 月には、この国際会議の続編となる、Whither Islamicate Digital Humanities? と題する国際シンポジウムがアムステルダムで開催された。同シンポジウムは、2013 年の国際会議と 2016 年の論集 (Muhanna 2016) の次なる成果が発表される場であり、このシンポジウム後に、MELA の中でもデジタル人文学のワーキンググループのメーリングリストが新たに設定され、また、シンポジウム参加者のほうでもオンライン会議などを開催するオンライン研究グループ (Islamicate Digital Humanities Network: The Next Generation, <https://idhn.org/>) が作成されるなど、アムステルダムのシンポジウムは「イスラーム・デジタル人文学」という新しい研究分野の確立と、中東研究ライブラリアンへの波及という面で一つの画期をなす出来事だったといえる。

とはいえ、欧米の中東研究ライブラリアンたちのデジタル人文学に対する関心は、自らがそこに参入するというよりはむしろ、学生や研究者に対してその成果や方法を紹介することにある。他方、デジタル人文学の専門家たちの多くは、イスラーム研究のためにデジタル技術を駆使するのであって、ライブラリアンの業務のためにこれを応用しようとする研究者は殆どいない。

図書館に所属する研究者の立場からは、OCR 技術や図書の自動分類、自動目録、セマンティック・ウェブの進展による検索技術の向上など、デジタル技術が中東研究ライブラリアンの業務に益する面も大きいと考える。今後、この分野の動向にも注視しつつ、図書館業務への還元の可能性を探っていきたい。

< 引用文献 >

- 徳原靖浩 2020. 「イスラーム地域研究情報資源学」 (<https://tokuhararian.github.io/>)、Character Input Panels for Catalogers. (<https://tokuhararian.github.io/araperotatur/>)
- 徳原靖浩 2021. 「大学図書館におけるアジア資料の分類付与状況と、目録業務に関する提言」『メタデータ評論』1: 47-54. (オンライン)
- Cassner, Mary and Adams, Kate E. 2008. "The Subject Specialist Librarian's Role in Providing Distance Learning Services." *Journal of Library Administration* 48(3/4): 391-410.
- Click, Amanda B., Ahmed, Sumayya, Hill, Jacob and Martin III, John D., eds. 2016. *Library and Information Science in the Middle East and North Africa*. Berlin/Boston: De Gruyter.
- Hazen, Dan and Spohrer, James Henry, ed. 2007. *Building Area Studies Collections*. Wiesbaden: Harrasowitz Verlag.
- Hirsch, David. 2007. "From Parchment to Pixels: Middle Eastern Collection Development in Academic Libraries." In Hazen, Dan, and Spohrer, James Henry, eds., *Building Area Studies Collections*, 81-107. Wiesbaden: Harrasowitz.
- Muhanna, Elias, ed. 2016. *The Digital Humanities and Islamic & Middle East Studies*. Berlin/Boston: De Gruyter.
- Pitman, Lesley. 2015. *Supporting Research in Area Studies*. Waltham: Chandos Publishing.
- Salamon, Anais. 2015. "Middle Eastern Studies Librarian: An Ambivalent Professional Identity" *The Journal of Academic Librarianship* 41: 644-652.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 徳原靖浩	4. 巻 第1号
2. 論文標題 < 提言 > 大学図書館におけるアジア資料の分類付与状況と、目録業務に関する提言	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 メタデータ評論	6. 最初と最後の頁 47-54
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 1件）

1. 発表者名 Yasuhiro Tokuhara
2. 発表標題 Middle Eastern and Islamic Resources in Japan: An Overview and Problems in Cataloging and Utilization
3. 学会等名 MELCom International 2018（国際学会）
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

6. 研究組織

氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------